



図6: まちの顔を創出する新庁舎のイメージ

テーマ1 誰もが立ち寄りやすい市民に開かれた庁舎

## 1.「並列配置」による明快な敷地利用

鹿児島の強い陽射しを制御し、自然通風・採光を実現するデザインの「新庁舎」を敷地中央に、「ふれあいセンター」と並列配置します。南北にオープンスペースを設け南北両面に開かれた計画とします。

### ①中央公園：多様な活動自体が「まちの顔」となる

市民に親しまれている中央公園の機能を継承しながら、多様なエリアを設けます。子どもからお年寄りまで安心・安全に時を過ごす姿が旧駅前エリアの新たな「顔」となります。

### ②駐車場：利便性を高め、歩車分離を徹底

130台の駐車場と65台の駐輪場を北側に集約し、中央公園と完全に歩車分離します。

### ③ふれあいパーサージュ：明快なアプローチ

中央公園と駐車場を結ぶ「ふれあいパーサージュ」により、バス利用者、車利用者ともにわかりやすく来庁できます。

### ④連携ロビー：2棟がつながる市民スペース

庁舎の待合とアトリウムが一体となった「連携ロビー」は多様な市民の活動の場であり、その活動は「芝生ひろば」とも連続します。



図7: 北側イメージ

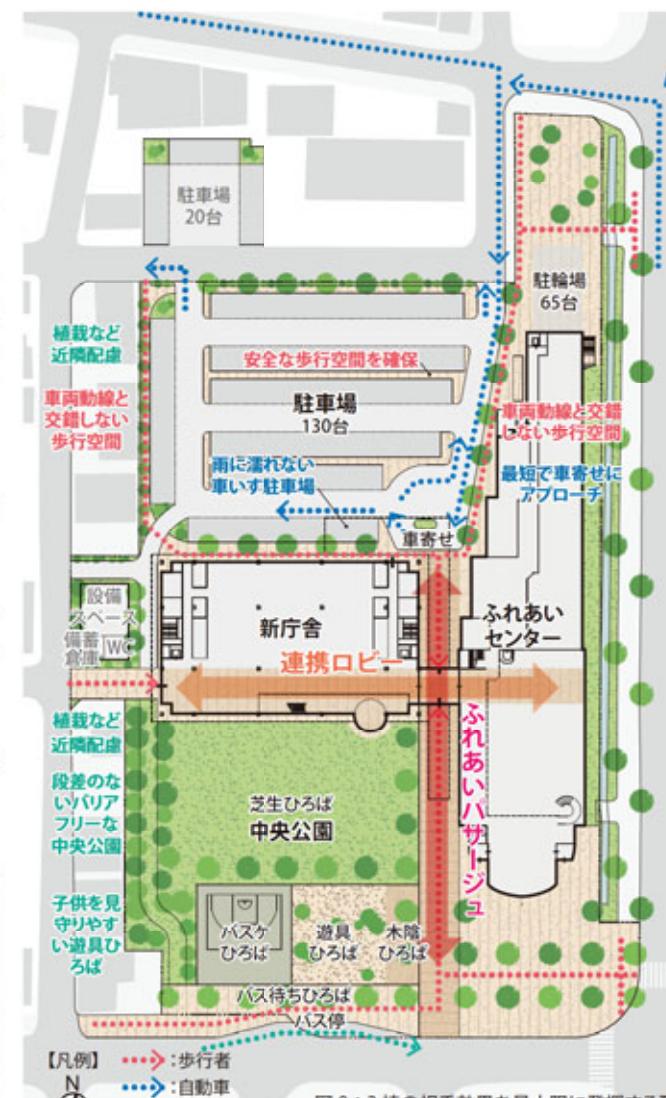


図8: 2棟の相乗効果を最大限に発揮する配置計画

図9: 2棟の連携利用が可能な断面構成イメージ

## 2. コンパクトで機能豊かな空間構成

### ①コンパクトな新庁舎

「新庁舎」は「ふれあいセンター」と各階で接続するユニバーサルデザインとし、共用利用によるコンパクト化で移動距離も短い計画です。



### ②シンプルで機能的な安心して過ごせる庁舎

「左右対称」、「各階共通」の明快な空間構成とし、執務室を中心南側は市民サービスゾーン（待合）、北側は職員サポートスペースを設けることで機能性を高め、業務効率とサービスの質を向上させます。

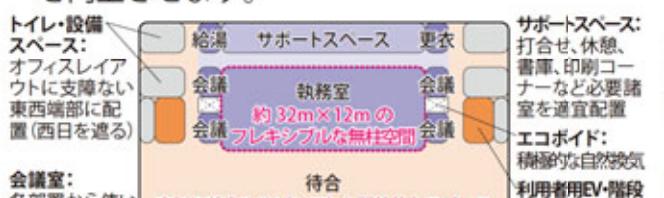


図10: 各階共通のわかりやすい基準プラン



図11: プライバシーへの配慮

## 4F: 議会部門フロア

議会の独立性を確保した上で、議員、執行部、市民の明快な動線分離を行い、誰もが訪れるやすい開かれた議会とします。

**議場**  
多目的利用しやすく、バリアフリーに優れた平土間とし、可動式家具の導入を検討。

**傍聴席**  
傍聴しやすく、バリアフリーにアクセスできる床の高さとする。

**委員会室**  
可動間仕切により、委員会の種類に応じた利用が可能。



## 3F: 総務部門・首脳部門・防災フロア

総務・財政・企画政策課など首脳部と関わりの強い部門や庁議室を集約し、災害時には災害対策の中枢を担います。

**庁議室**  
災害対策本部となり、首脳部門から直接出入り可能。

**市長室**  
南側の市街地を一望でき、災害時等の状況把握もしやすい。

**ラウンジ**  
市長・副市長面談の来客待合としても利用できる明るいスペース。

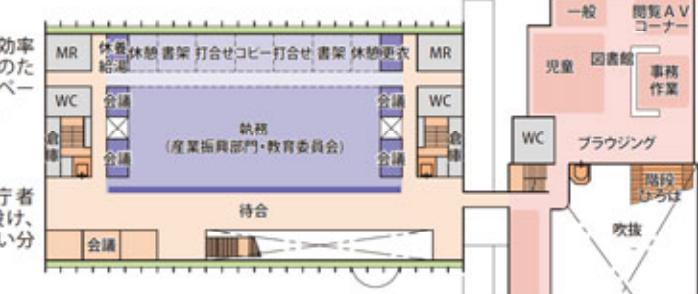


## 2F: 産業振興部門・教育委員会フロア

執務室は約32m×12mが無柱の柔軟性の高い空間です。また会議室や打合せスペースなどを充実させます。

**サポートスペース**  
北側に職員の業務効率やアメニティ向上のためのオープンなスペースを集約して配置。

**会議室**  
職員ゾーンと来庁者ゾーンの両方に設け、利用者に応じた使い分けが可能。



## 1F: 窓口部門フロア(市民・税務・福祉・水道課)

1階に集約した窓口はエントランスから一目で見渡せます。個別相談に対してはプライバシーに配慮した相談室を多く設けます。

**夜間通用口 + 守衛室**  
駐車場から見やすくて、閉鎖時の手続きも行きやすい配置。

**キッズスペース**  
子供連れでも安心して相談・手続きできるよう、カウンターに近接して配置。

**授乳室**  
女性だけでなく、男性も利用できるよう2箇所の配置を検討。

**総合案内**  
券機、証明書発行機、記載台等を併設、無人・有人のサービスに対応。

**相談室**  
プライバシーに配慮した防音性能を確保、2方向に出口を設置。

**打合せコーナー**  
簡単な相談など柔軟に利用可能。

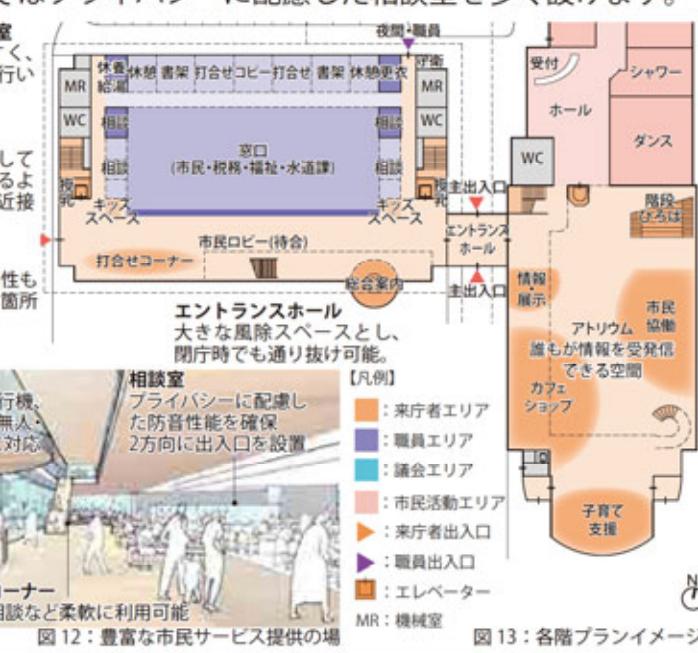


図12: 豊富な市民サービス提供の場

図13: 各階プランイメージ